

あさひむら としよかん新聞

村立朝日村図書館発行

2024年3月1日

(第36号)

3月



おもしろいぞー!「刀子」の世界

「刀子」と読みます。さて、何でしょう? わかる人は歴史が好きな人かしら。

朝日村氏神遺跡から平安時代の人々の暮らしの一片が読み取れるモノが出土しました。土師器や黒色土器、灰釉陶器などです。中でも鉄製の刀子は村内では初めての出土です。

この刀子はちょうど『源氏物語』が成立した時期、平安中期のものです。まだこの頃は刀子を日常的に、一般人が持てる時代ではなかったと考えられます。おそらく文章を扱う役人が身に着けていたものではないでしょうか。

この頃、紙は貴重なものだったため、荷札などには「木簡」と呼ばれる木の札が使われました。木簡に文字を書き、業務が行われていました。が、この木簡を削るナイフが「刀子」です。文房具みたいですね。しかしそれだけでは無いようです。政治の中心・都では、位の高い官人らが裝飾された刀子を腰に下げていたとか。実際に奈良正倉院宝物には、眩いばかりの美しい刀子が千年以上の時を超え残されています。その時代の流行やステータスだったのかもかもしれません。

「刀」という文字が入るため「武器武器」、「権力の象徴」と解釈される一方「生活道具」としての役割も占め始めます。時代が下り、鉄

製品が身近に手に入るようになると日常のナイフとして、切る、刻むなど様々な材質へ対応する道具として庶民に扱われるようになります。

「刀子」は時代によって、捉え方、扱い方、扱う人が大きく変わっていったのです。おもしろいですね。

鉄製品は土中で水分と酸素の影響で腐食が進行します。土の中から取り上げた時は厚い錆に覆れており、空気に触れた瞬間、一気に錆が進み崩壊することがあります。

奇跡的に原形を取り留めた氏神遺跡の刀子は、崩壊寸前だったため「保存処理」を行いました。実際、処理直前に刀子は4つに割れてしまいました。どのように「保存処理」を行ったか、興味のある人はぜひ朝日美術館で実物とともに保存処理の記録をまとめた「報告書」をご覧ください。

(朝日美術館 学芸員 青木啓子)

つくえ うえ とうす
机の上に刀子が
置かれています

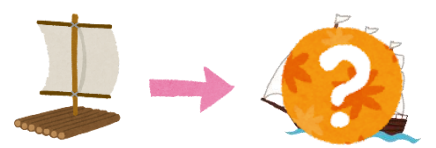


刀子の世界へようこそ

読書推進イベント「たからさがしシーズン2」がはじまるよ!

今年度大好評だった「たからさがし」がさらに進化してシーズン2が始まります。世界中に散らばった「おたから本」を探し出して読んでみよう! シーズン2では船の冒険があなたを待っています! 世界一の冒険家を目指しながら1年間楽しんで本を読みましょう!

イベント期間 令和6年4月3日(水)~令和7年3月中旬
イベント申込 イベント期間中はいつでも受付
参加条件 1年間続けてイベントに参加してくれる方ならどなたでも



※詳しくは図書館でお尋ねください。

図書館フォーエバー 丸山真由美(司書)

朝日村には100年前から図書館があります。建物は変わりましたが、いつの間にか変わりましたが、時代も利用する人がいます。今、100年前の図書館にあった本を読もうとすると、「字が細かいし、難しく読めないなあ」と思いませんか。100年前の人が今の本を読もうとしたら、「カタカナ英語がいっぱい読めないなあ」と思いませんか。本は時代とともに変化してきましたが、

ずっと読まれています。なぜなら本はやめられないからです。知らないことを山ほど教えてくれるし、自分ではできない体験させてくれます。想像力は人間にとって「尽きない宝」なのです。そして、不思議なことに求めれば求めるほど素敵な本にめぐり合え、これまた尽きることがないのです。だから、きつこれからは本は読まれ続けることですよ。さあ、図書館はいつでもあなたを待っていますよ!

ご協力いただきありがとうございました

今年度、村立朝日村図書館では100周年にあたり様々な方にご協力いただきました。図書館の思い出を寄稿して下さった皆さん、ペットボトルキャップの投票に参加して下さった皆さん、様々な企画にご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。今後も図書館で皆様のお越しをお待ちしております。

村立朝日村図書館 職員一同

「じつは伝わっていない 日本語大図鑑」
言葉の世代間ギャップの拡がり
「見積もりに色を付けて」と言われ「何色にしたらいいですか?」と答える...言葉の世代間ギャップが止まらない! 現代の若者たちにとって理解不能な言葉を紹介しています。
その日本語、じつは伝わっていないかも...



「じつは伝わっていない 日本語大図鑑」

監修: 山口謡司
出版: 東洋経済新報社